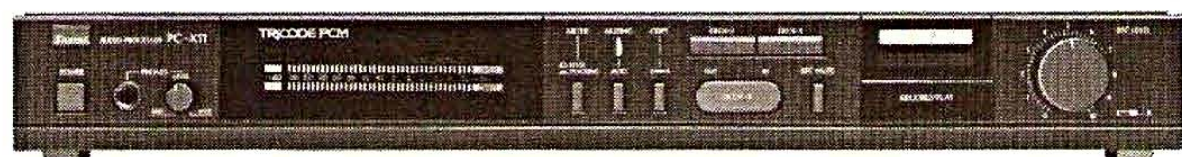


# TRICODE PCM PC-X11

トライコードPCMオーディオプロセッサー

## 取扱説明書



ご使用前に必ずお読みください。

*Sansui*

このたびは、サンスイ製品をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり本機の性能を十分に発揮させてご愛用くださいますようお願いいたします。

※説明の便宜上、イラストは原型と異なることがあります。

### 目次

ご使用になる前に	3
各部の名称と説明	4
接続	7
録音	8
再生	10
デジタルコピー	11
トラブルと修理依頼/規格	12

### ■ アフターサービスについて

**保証書**——この製品には保証書が添付されています。

「お買い上げ店の捺印、購入年月日」などの記入及び記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

所定事項が記入されていない場合や紛失した場合は保証期間中でも保証が無効となります。

**保証期間**——この製品はお買い上げの日より1年間です。

正常な使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合は保証書に記載されている当社修理規定に基づき、修理いたします。

保証期間経過後の修理については当社消費者相談窓口、またはお買い上げの販売店にご相談ください。

この製品の補修用性能部品\*1の最低保有期間は、製造打ち切り後8年\*2です。詳しくは、当社消費者相談窓口にお問い合わせください。

\*1補修用性能部品とは、この製品の機能を維持するために必要な部品です。

\*2この期間は、通商産業省の指導によるものです。

この取扱説明書は保証書、サービスネットワークと一緒に大切に保存してください。万一ご使用中にわからないことや不具合が生じたときにお役に立ちます。

### 特長

#### トライコードPCM回路により「3倍モード」に対応

サンスイ独自のトライコードPCM回路の搭載により、VTRの「3倍モード」におけるPCM録音/再生が可能です。

トライコードPCM回路により、PCM信号の読み取り精度が大幅に高まり、従来では読み取りが非常に困難だった劣化したPCM信号でも正確に読み取ることができるため、「3倍モード」でも「標準モード」と変わらないクオリティのPCMサウンドが得られます。

したがって、長時間にわたるPCM録音/再生ができるため、テープのランニングコストが大幅に向上します。

#### 音質重視設計

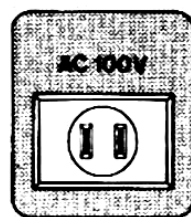
PCMオーディオプロセッサは、アナログ信号をデジタル信号としてパルスコードに変換し、録音/再生するデジタル機器ですが、入出力部分ではアナログ信号を扱っています。PC-X11では電源部やアンプ回路に十分な検討を加え、永年にわたるアンプづくりで培われたノウハウを生かし、定評のある「サンスイサウンド」を実現しています。

#### その他の主な機能

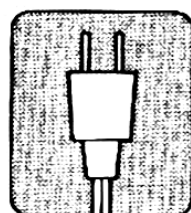
- VTRのトラッキング状態を目で確かめながら調整できるチェック機能。
- 再生時、ドロップアウトなどによる雑音の発生を自動的に防ぐ再生ミュート機能。
- 録音時に不要な部分をカットし、無音録音部分をつくることのできる録音ミュートスイッチ。
- 見やすいピークホールド機能、OVER表示付きピークレベルメーター。
- 前面パネルに設けたデッキ-2端子により、音質を損なうことのないPCMデジタルコピーが簡単に行えます。
- テレビシステムとの接続に便利なモニターテレビ端子。
- 音量レベルコントロール付のヘッドホンジャック。

# ご使用になる前に

## ■ 次の事項にご注意ください



**100V交流(AC)電源で……………**  
この製品は100V専用です。クーラーなどの200V電源には絶対に接続しないでください。故障や火災の原因になり、危険です。また、直流(DC)電源ではご使用になれません。



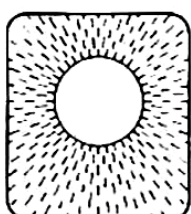
**電源コードについて……………**  
コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。  
また、濡れた手で電源プラグの抜き差しを行うと感電する場合がありますので、絶対におやめください。  
●長時間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。



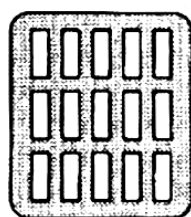
**ケースや底板をはずさないで……………**  
内部の点検や調整は、故障や感電事故の原因になります。内部に触れることは絶対にしないでください。  
また、内部を改造した場合の性能の劣化については保証いたしません。



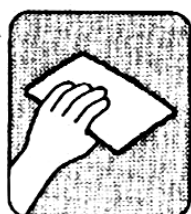
**内部に異物が……………**  
内部にヘアピンや硬貨などの金属物が入った場合や誤って水がかかった場合は、電源プラグをコンセントから抜き、最寄りの当社サービス窓口または販売店にご相談ください。  
そのままでご使用になりますと故障や感電事故の原因になります。



**設置上の注意……………**  
次のような場所には設置しないでください。性能の劣化や故障の原因になります。  
●直射日光の当たる場所や暖房器具などの発熱物の近く。  
●湿気や水分のある場所。  
●風通しが悪く、ホコリの多い場所。  
●振動や傾斜のある不安定な場所。  
●大出力のアンプや管球式のアンプなどの発熱の大きな音響製品の上。  
●テレビや他の受信機の近く。  
(同時に使用すると雑音が入ることがあります。)



**放熱について……………**  
本機は上下の通風孔により空気の対流を効果的に利用し、放熱が行われるように設計されています。上面のスペースを十分に取り、下から上への通風を良くしてください。上に物を置いたり、柔かな敷物の上に本機を置くと放熱効果を悪くする場合がありますのでご注意ください。  
通風が悪く、放熱が十分でないで内部温度が異常に上昇し、故障の原因になる場合があります。



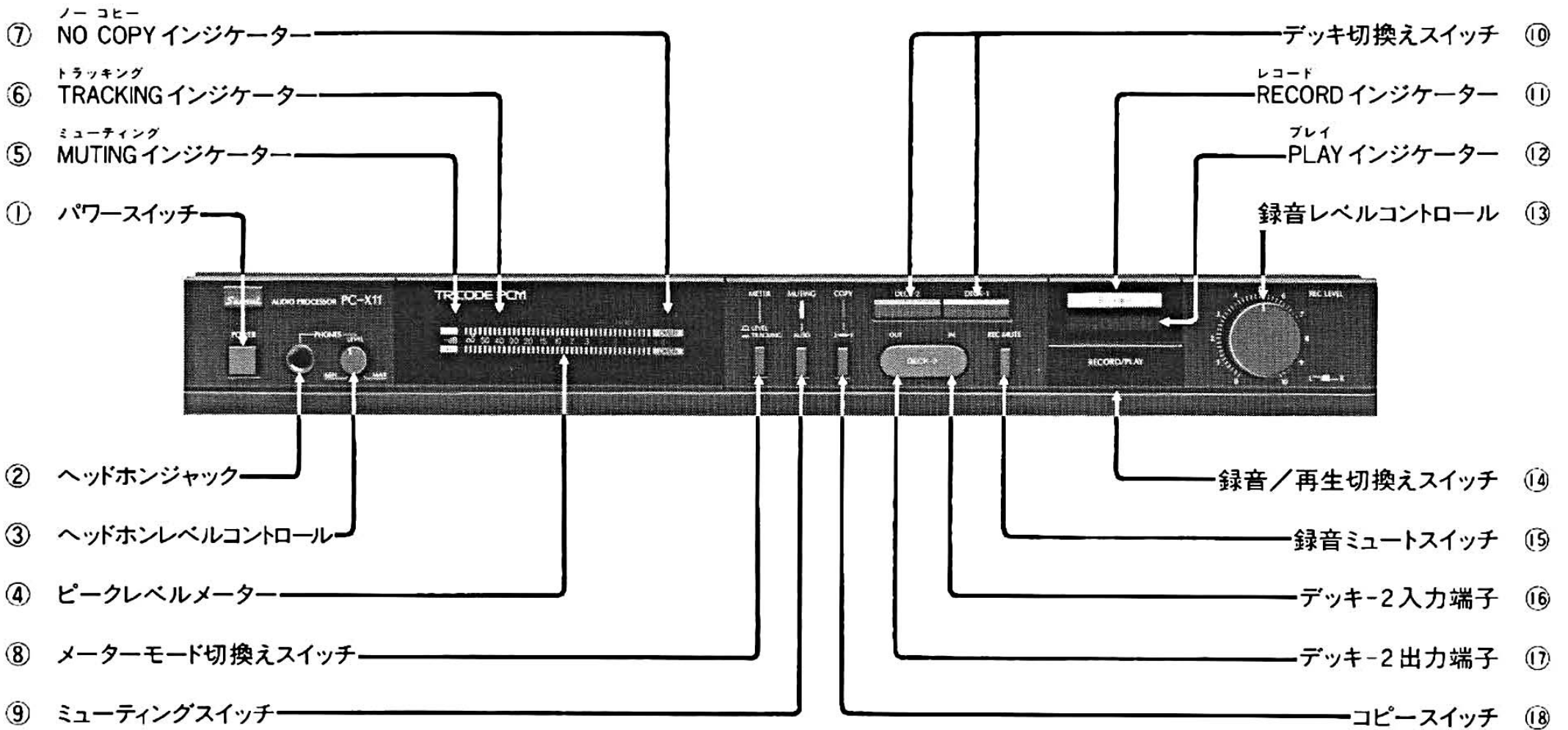
**シンナーなどでふかないで……………**  
パネルやケースは、ときどきやわらかい布でからぶきしてください。シンナーやアルコールなどの揮発性のものを用いると表面が侵され、外装ムラや文字が消えたりすることがありますから絶対に使わないでください。  
また、スプレー式の殺虫剤などもかからないようにご注意ください。



**音のエチケット……………**  
音量は時や場所に応じて適度な大きさに調整してください。特に、静かな夜間は小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には音量に気を配りましょう。  
窓をしめたりヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

# 各部の名称と説明

## PC-X11前面部



### ① パワースイッチ (POWER)

電源を入れるときにこのスイッチを押します。もう一度押してスイッチを解除すると電源が切れます。

### ② ヘッドホンジャック (PHONES)

ステレオヘッドホンのプラグをこのジャックに差し込んで録音信号をモニターしたり、テープ再生音をきくことができます。音量の調整はヘッドホンレベルコントロールで行います。

●ヘッドホンを使用しないときはプラグを抜いておいてください。

### ③ ヘッドホンレベルコントロール (LEVEL)

ヘッドホンジャックに接続したステレオヘッドホンの音量を調整するためのつまみで、右にまわすほど音量が大きくなります。ヘッドホンを使用しないときは左にまわしきって、“MIN.”の位置にしておいてください。

### ④ ピークレベルメーター

このメーターはメーターモード切換えスイッチの設定によって次の内容を表示します。

メーターモード切換えスイッチを“LEVEL”にセット：

録音中は録音されるレベルのピーク値を、再生中は再生レベルのピーク値を表示します。

パワースイッチを押して電源を入れると左右チャンネルの“∞”表示が点灯し、信号レベルにしたがって-50dBから+15dBの表示が点灯します。また、-7dB~+15dBの表示の部分はピーク値を約1秒間ホールド(保持)するピークホールド機能を持ち、瞬間的なピーク入力も見やすく表示するので、適確な録音レベルの設定が容易に行えます。過大入力時には最大入力を越えていることを警告する“OVER”表示が点灯します。

メーターモード切換えスイッチを“TRACKING”にセット：

“TRACKING”表示が点灯し、L(左)チャンネルの点灯により、VTRのトラッキング調整を行うことができます。

### ⑤ MUTING インジケータ

再生時にミューティングスイッチが“AUTO”にセットされている場合、VTRのトラッキングずれやテープの汚れや、傷のためにドロップアウトが生じたときなどに、内蔵のミューティング回路が働くと点灯します。

### ⑥ TRACKING インジケータ

メーターモード切換えスイッチを押して“TRACKING”にセットすると、このインジケータが点灯してVTRのトラッキング状態を示します。

### ⑦ <sup>ノーコピー</sup> NO COPY インジケータ

テープコピー禁止符号が記録されているテープを再生すると点灯し、デジタルコピーができないことを示します。

### ⑧ メーターモード切換えスイッチ (METER)

ピークレベルメーターの表示モードを切換えるためのスイッチです。通常は“LEVEL”にセットしておきます。ピークレベルメーターは録音信号や再生信号のピーク値を表示します。

VTRのトラッキング調整を行うには“TRACKING”にセットします。ピークレベルメーターのL(左)チャンネルのみがトラッキング表示になります。

### ⑨ ミューティングスイッチ (MUTING)

通常、このスイッチは“AUTO”にセットしインジケータが点灯した状態にしておきます。

テープ再生時、VTRのトラッキングずれや、テープの汚れ、傷のためドロップアウトが生じた場合などに内蔵のミューティング回路が働いて出力をカットし、雑音の発生を防ぎます。

テープの状態が悪く、たびたびミューティング回路が働いて音が途切れる場合は、もう一度このスイッチを押してインジケータが消灯した状態にセットすると、多少の雑音は出ますが連続して再生することができます。

また、VTRの早送りサーチ機能を利用して、曲の頭出しなどを行うこともできます。

### ⑩ デッキ切換えスイッチ (DECK-1, DECK-2)

このスイッチは本機に接続したデッキ(VTR)に応じて切換えます。

DECK-1……本機背面パネルに接続したデッキ-1で録音や再生を行う場合にこのスイッチを押します。

DECK-2……本機前面パネルに接続したデッキ-2で録音や再生を行う場合にこのスイッチを押します。

### ⑪ <sup>レコード</sup> RECORD インジケータ

録音/再生切換えスイッチが“RECORD”にセットされているときに点灯し、録音モードであることを示します。

### ⑫ <sup>プレイ</sup> PLAY インジケータ

録音/再生切換えスイッチが“PLAY”にセットされているときに点灯し、再生モードであることを示します。

### ⑬ 録音レベルコントロール (REC LEVEL)

録音を行うときに録音レベルを調整するためのつまみで、右にまわすほど録音入力レベルが高くなります。

また、つまみの手前側が左(L)チャンネル用、奥が右(R)チャンネル用となっていますので、それぞれ単独にまわすことにより左右の録音レベルバランスを調整することができます。

### ⑭ 録音/再生切換えスイッチ (RECORD/PLAY)

録音と再生モードを切換えるスイッチです。

このスイッチを押すたびに上部の“RECORD”と“PLAY”インジケータが交互に点灯し、セットされたモードを表示します。

テープ再生を行う場合は“PLAY”インジケータ点灯にセットし、録音を行う場合は“RECORD”インジケータ点灯にセットしてください。

### ⑮ 録音ミュートスイッチ (REC MUTE)

録音中にこのスイッチを押すと、押している間だけ無音録音部分をつくることができます。曲と曲の間に一定のブランクをつくる時などに使用すると便利です。

### ⑯ デッキ-2入力端子 (DECK-2, IN)

PCM再生用のビデオ入力端子です。2台目のVTRの映像出力端子と接続します。

### ⑰ デッキ-2出力端子 (DECK-2, OUT)

PCM録音用のビデオ出力端子です。2台目のVTRの映像入力端子と接続します。

●DECK-2端子にはゴムキャップがはめこまれているので、この端子をご使用の際には取りはずしてください。

### ⑱ コピースイッチ (COPY)

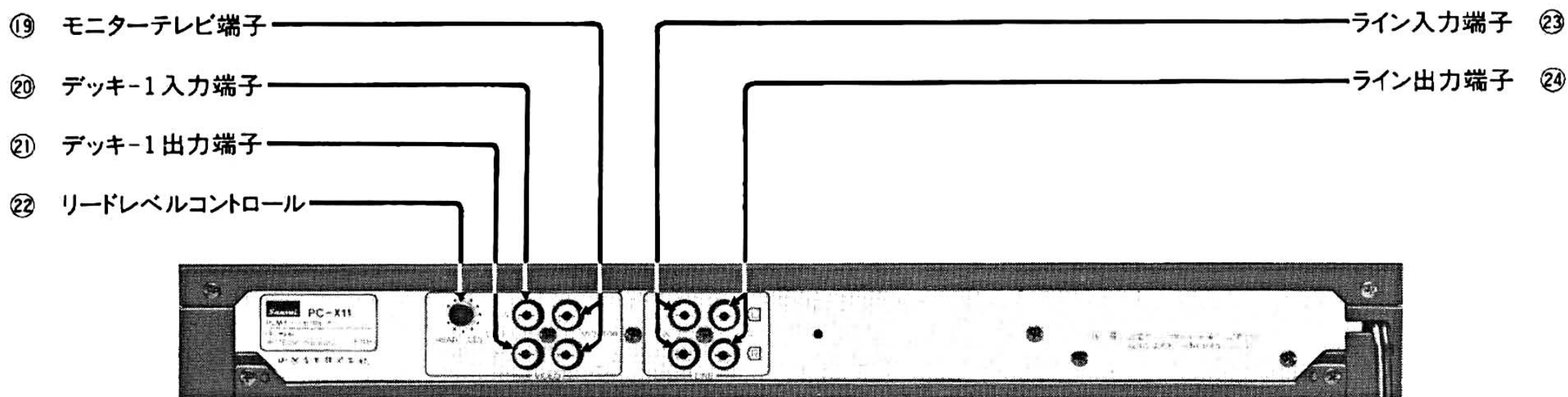
VTRを2台接続してテープからテープへのデジタルコピーを行うときにこのスイッチを押してインジケータ点灯状態にします。

デッキ-1から2へのコピー(1▶2)とデッキ-2から1へのコピー(2▶1)を行うことができます。

再生信号はドロップアウトなどの誤りが補正されて録音されるため、音質劣化のないデジタルコピーが可能です。

●通常の録音や再生時には、このスイッチを必ずインジケータ消灯の状態にセットしておいてください。このスイッチが押されていると通常の録音を行うことができません。また、再生時にひずみが増加する場合があります。

### PC-X11背面部



#### ①⑨ モニターテレビ端子 (MONITOR 1, 2)

モニターテレビ用の映像出力端子で、モニターテレビをご使用の場合その映像入力端子と接続します。

- モニターテレビは2台接続できますが映像は同じものです。
- 映像入力端子のないテレビをこの端子に接続することはできません。

#### ②⑩ デッキ-1入力端子 (DECK-1, IN)

PCM再生用のビデオ入力端子です。1台目のVTRの映像出力端子と接続します。

#### ③⑪ デッキ-1出力端子 (DECK-1, OUT)

PCM録音用のビデオ出力端子です。1台目のVTRの映像入力端子と接続します。

#### ④⑫ リードレベルコントロール (READ LEVEL)

トラッキング調整を行う場合に、VTRのトラッキング調整ツマミをまわしても調整しきれないときは、このツマミをまわしてみます。VTRからの信号が極端に非対称な状態でも、改善される場合があります。

通常は中央のクリックのある位置にセットしておきます。

#### ⑤⑬ ライン入力端子 (LINE IN)

録音用の入力端子です。ステレオアンプのテープ録音(TAPE REC)端子と接続します。

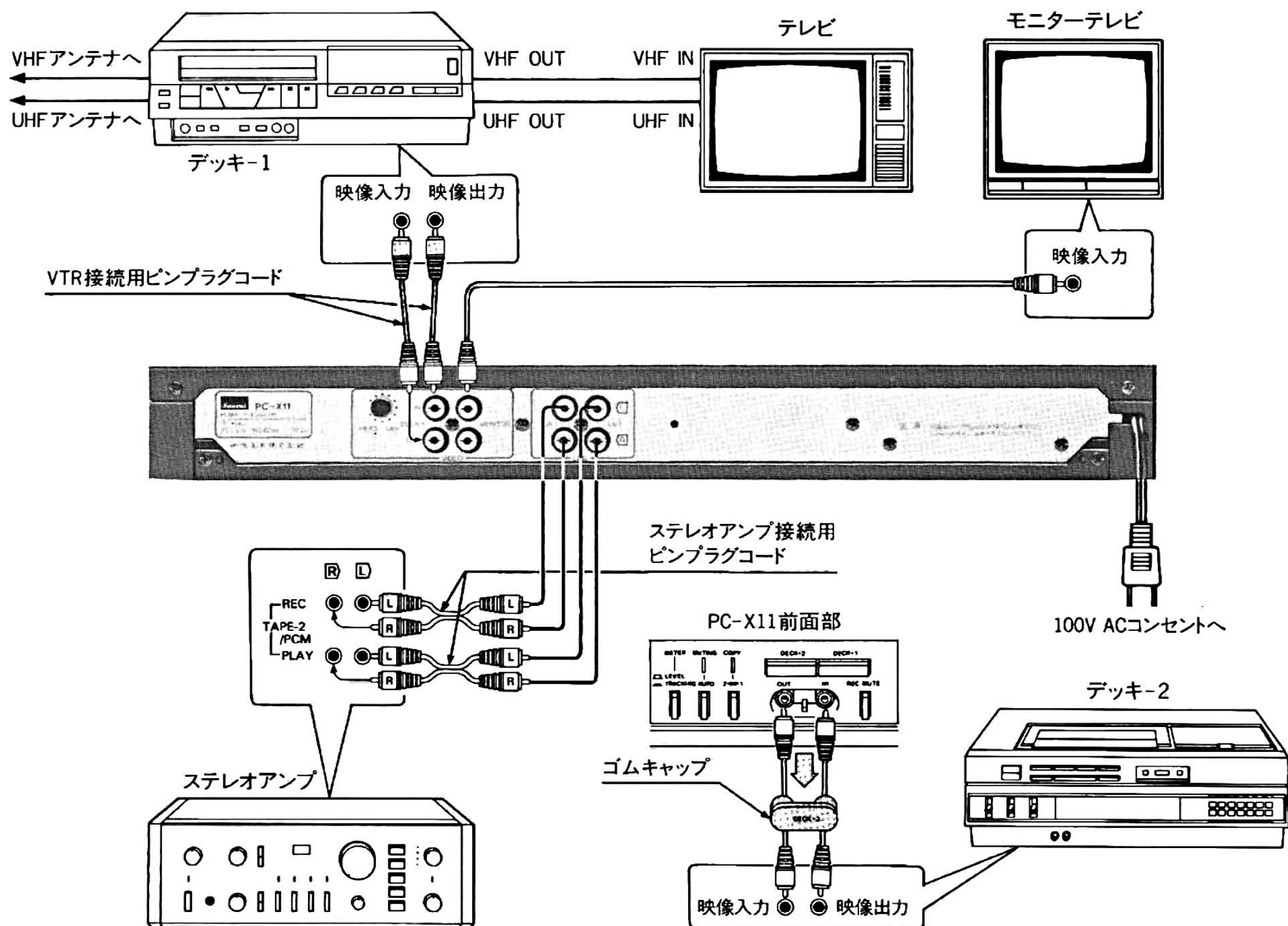
#### ⑥⑭ ライン出力端子 (LINE OUT)

再生用の出力端子です。ステレオアンプのテープ再生(TAPE PLAY)端子と接続します。

### 🔌 接続上の注意

- 接続は、電源プラグをACコンセントから抜くか、パワースイッチで電源を切ってから行ってください。
- 各端子の“IN”、“OUT”や“L”、“R”をよく確かめ、図を参照して正しく接続してください。
- プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は雑音発生の原因になります。
- 付属のピンプラグコードは赤と白のプラグ付きがステレオアンプ接続用、黒のプラグ付きがVTR接続用です。
- 本機に接続されるステレオアンプやVTRの取扱説明書もよくお読みのうえ、接続を行ってください。

# 接続



## アンプとの接続

付属のステレオアンプ接続用ピンプラグコードを用いて、アンプのテープ録音 (TAPE REC) 端子と本機背面のライン入力 (LINE IN) 端子を、アンプのテープ再生 (TAPE PLAY) 端子と本機のライン出力 (LINE OUT) 端子を接続します。

L (左), R (右) のチャンネルを確かめて、正しく (L と L, R と R) 接続してください。

## VTRとの接続

本機背面と前面の端子に計2台のVTRを接続することができます。

デッキ-1の接続:

VTRの映像出力 (VIDEO OUT) 端子と本機背面のデッキ-1入力端子 (DECK-1, IN) を接続し、VTRの映像入力 (VIDEO IN) 端子と本機のデッキ-1出力端子 (DECK-1, OUT) を接続します。

この接続には、付属のVTR接続用ピンプラグコード (黒プラグ付, 75Ω同軸ケーブル) をご使用ください。

デッキ-2の接続:

本機前面のデッキ-2端子のゴムキャップをはずし、デッキ-1と同様の接続をします。

## モニターテレビとの接続

モニターテレビをご使用の場合は、その映像入力端子と本機背面のモニターテレビ端子の1または2を接続します。

※現在ご使用中のTVシステムとVTRの接続に、上記の接続を追加することにより、PCM録音/再生を行うことができます。PCM録音とTV録画の切換えは、VTRの入力切換えスイッチで行います。詳しくはVTRの取扱説明書をご覧ください。

# 録音

## 録音の前に

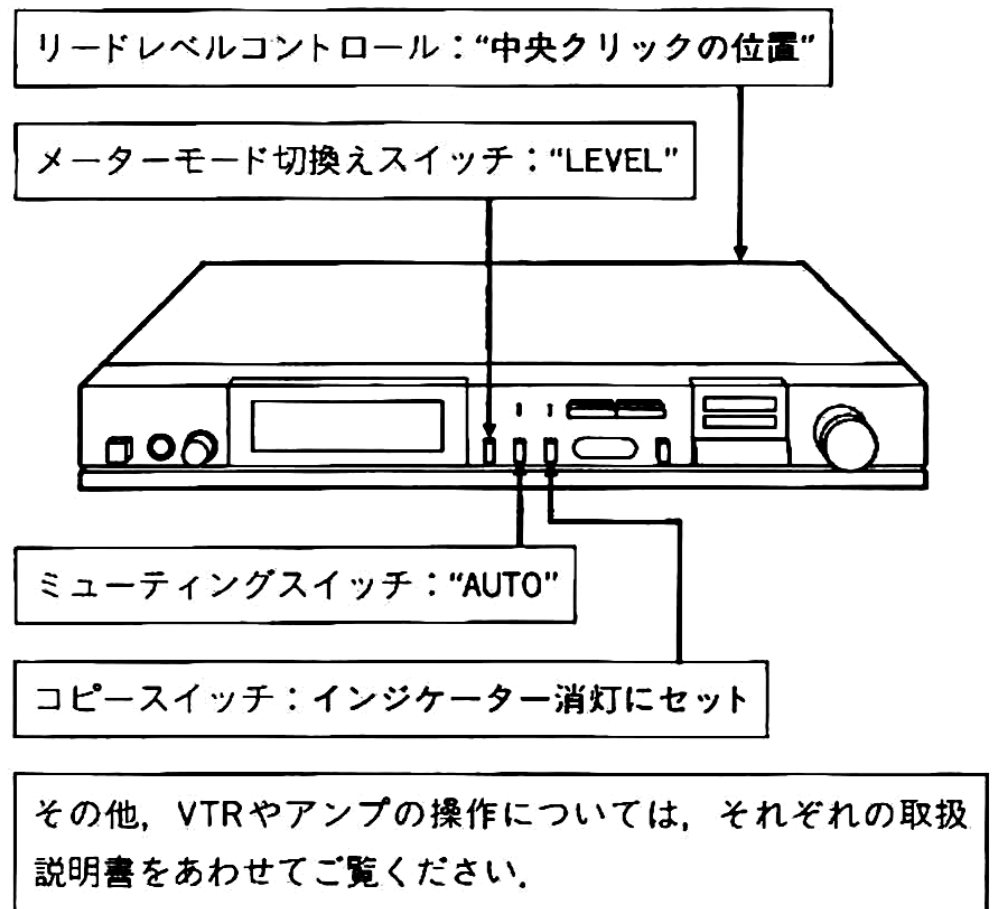
※PC-X11には「トライコードPCM」回路が採用されているため、VTRの録画時間を「3倍モード」にセットして録音しても、音質劣化のない再生を行うことができますが、他のPCMオーディオプロセッサのなかには、「3倍モード」で録音したテープは再生できないものがありますのでご注意ください。

※VTRによっては「3倍モード」で録音したビデオカセットテープを他のVTRで再生した場合に、音が出ないことがあります。

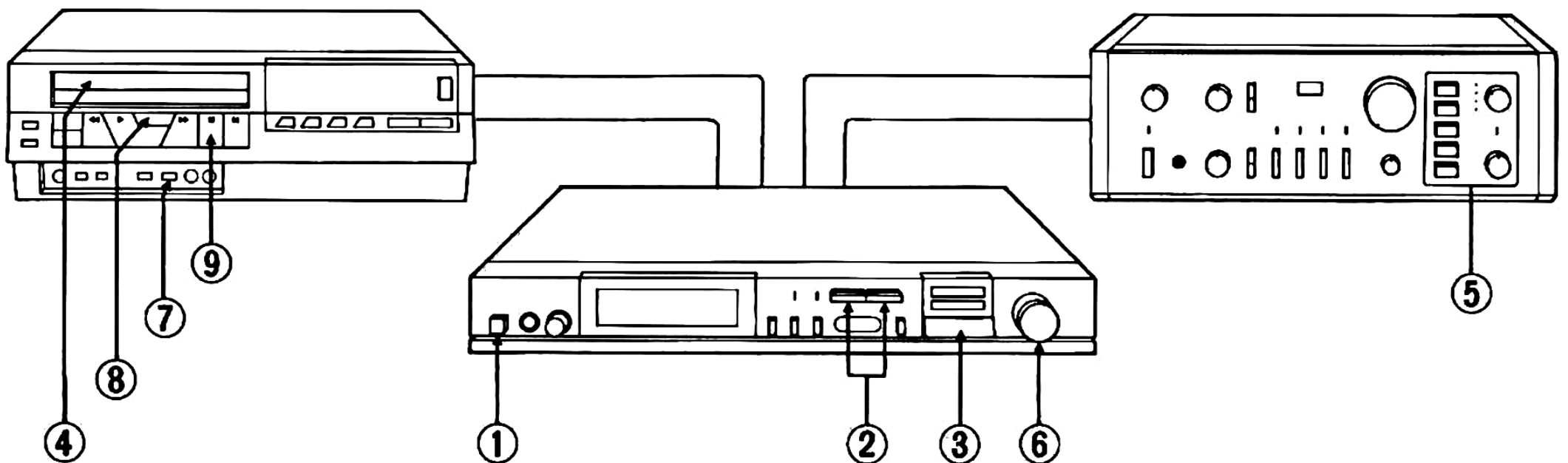
PCM録音したビデオカセットテープを他のVTRで再生したい場合は、録音時に「標準モード」で録音されることをおすすめします。また、VTRによっては「3倍モード」でのPCM録音／再生ができない場合があります。この場合も「標準モード」で録音を行ってください。

※PCM録音を行う場合は、VTRの入力切換えスイッチを必ず、「外部入力」に切換えてください。

操作を行う前に、各装置のスイッチやコントロールを次のようにセットしてください。



## 録音のしかた



- ① 各装置の電源を入れます。
- ② 録音を行うデッキに合わせてデッキ切換えスイッチを押します。
- ③ 録音／再生切換えスイッチを“RECORD”にセットします。このとき、“RECORD”インジケータが点灯します。
- ④ VTRにビデオカセットを装着します。
- ⑤ アンプのインプット(入力)セレクターなどを操作し、希望のプログラムソースが録音できる状態にします。
- ⑥ プログラムソースを再生し、録音レベルコントロールをまわして録音レベルを調整します。(9ページの“録音レベルの設定”の項を参照)
- ⑦ VTRの録画時間切換えスイッチをセットします。
- ⑧ VTRを録画状態にするとPCM録音が始まります。
- ⑨ 録音が終わったら、VTRの停止スイッチを押します。

あなたが放送やレコード、テープから録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

- “ツメ”の折られたビデオカセットには録音できません。
- VTRを2台接続した場合、デッキ切換えスイッチで選択した方のデッキにのみ録音が可能で、2台同時に録音することはできません。
- VTRのヘッドが汚れていると、録音や再生が行えないことがあります。この場合はVTRの取扱説明書にしたがってヘッドクリーニングを行ってください。
- 録音中に本機のコピースイッチやデッキ切換えスイッチ、録音／再生切換えスイッチ、録音ミュートスイッチを押すと、録音が中断されたり、テープにポップノイズが録音されることがありますのでご注意ください。



## 録音レベルの設定

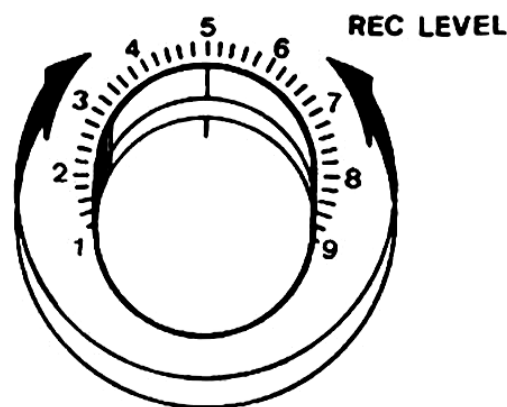
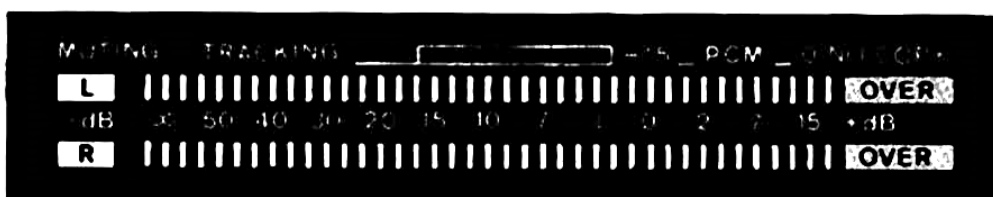
録音レベルの調整は Hi-Fi 録音を行うための大切なポイントとなります。いろいろなプログラムソースを録音して経験を重ね、適切な録音レベルを把握してください。

録音レベルは、一番大きな信号が入力されたときにピークレベルメーターの点灯が“+15dB”を越えないように調整します。

“+15dB”を越えると OVER 表示が点灯します。この OVER 表示が連続的に点灯する場合は、音がひずみますので録音レベルを下げてください。OVER 表示が、たまに点灯する程度であれば問題ありません。

プログラムソースによって異なりますが、一般的にはピークレベルメーターの点灯の平均値が“0dB”付近になるように調整します。

ピークレベルメーターは非常に敏感に反応しますので、ピーク値を気にしすぎて録音レベルを下げすぎると、S/N比が悪くなりますので注意してください。



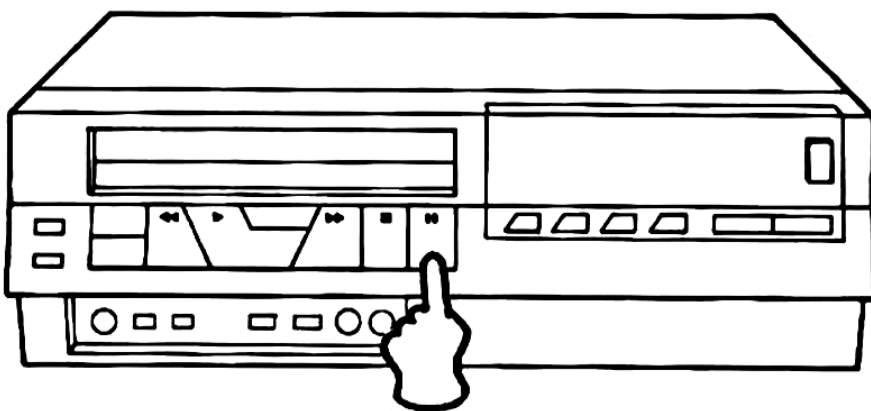
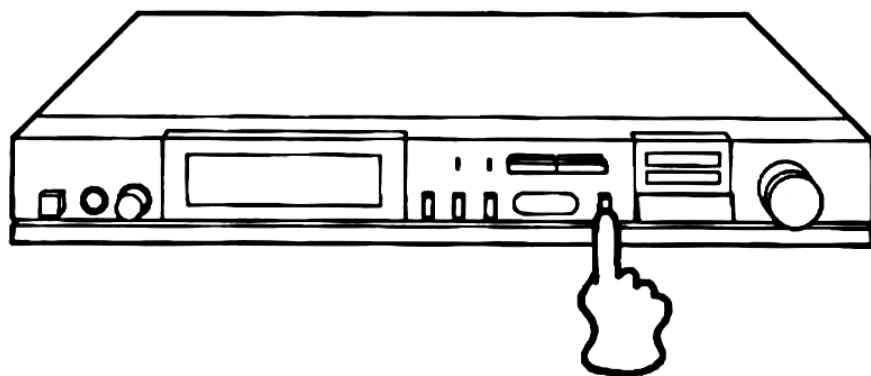
●ピークレベルメーターの“-7dB~+15dB”部分は、ピークホールド機能を持ち、ピーク値が約1秒間ホールドされ、その後、自動的に次のピーク値が表示されます。1秒以内に、より高いピーク値が入力された場合は、その値が表示されます。

●他のPCMオーディオプロセッサには、レベルメーターの最大レベルが“0dB”と表示されているものがありますが、この値は、本機の“+15dB”に相当します。ピークレベルメーター中央の“-15-PCM-0”の表示は、この関係を示すものです。

## 録音ミュートスイッチについて

放送を録音中に不要な会話やCMをカットしたり、曲と曲の間に一定のブランク(無音録音部分)をつくる時などに、録音ミュートスイッチを利用すると便利です。

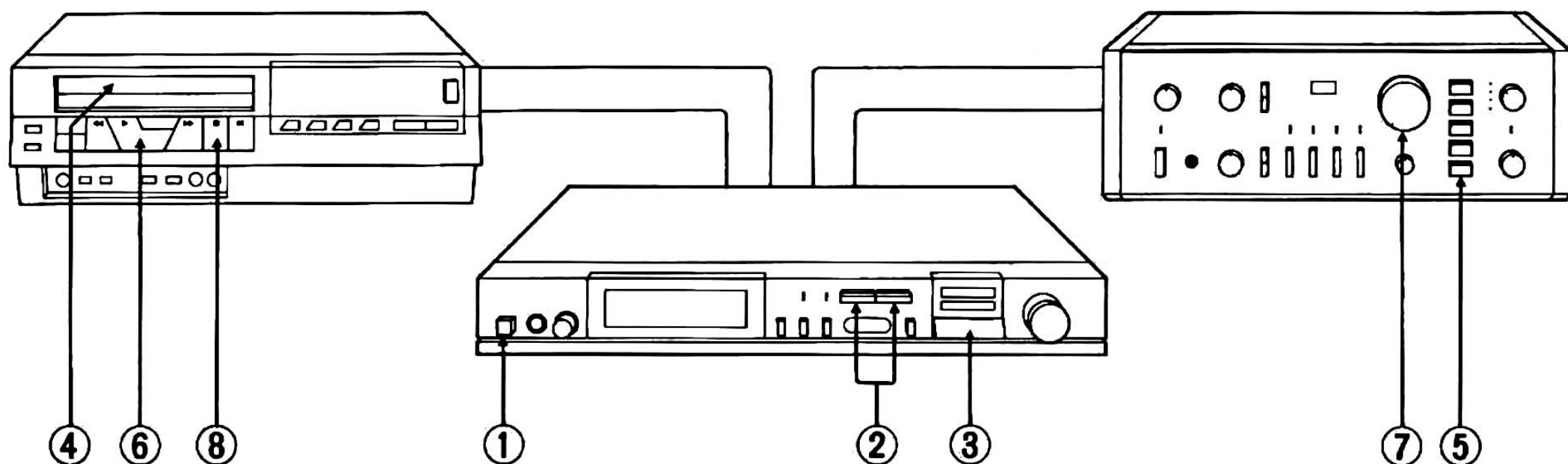
- ① 録音中に曲が終わったら、録音ミュートスイッチを押し続けます。押し続けている間、ピークレベルメーターは振れ続けませんが、テープには何も録音されません。
- ② 一定の時間が経過後、VTRの一時停止スイッチを押してテープ走行を止め、録音ミュートスイッチから指を離します。
- ③ ヘッドホンやスピーカーでモニターしながら、次の曲が始まるタイミングをみはからってVTRの一時停止状態を解除し、再び録音を始めます。



●「つなぎ録画」のできないVTRの場合、一時停止状態解除後の曲の頭が切れることがありますのでご注意ください。詳しくはVTRの取扱説明書をご覧ください。

# 再生

## 再生のしかた



- ① 各装置の電源を入れます。
- ② 再生を行うデッキに合わせて、デッキ切換えスイッチを押します。
- ③ 録音/再生切換えスイッチを“PLAY”にセットします。  
このとき、“PLAY”インジケーターが点灯します。
- ④ VTRに録音済みのビデオカセットを装着します。
- ⑤ アンプのテープ再生スイッチなどを操作し、テープ再生ができる状態にします。
- ⑥ VTRを再生状態にするとPCM再生が始まります。
- ⑦ アンプのボリュームコントロールを調整して、PCM再生をお楽しみください。
- ⑧ 再生が終わったら、VTRの停止スイッチを押します。

- PCM録音テープは、ダイナミックレンジが広いので信号のピーク成分が忠実に録音されている一方、雑音レベルは非常に低くおさえられています。そのため、再生中に無音録音部分や低レベルの信号部分で、むやみにアンプのボリュームを上げるとピーク成分が再生されたときにスピーカーを破損する恐れがあります。アンプのボリュームを上げすぎて、スピーカーの許容入力を越えないように注意してください。
- モニターテレビ端子にモニターテレビを接続している場合、録音や再生時にPCM信号のパターンを見ることができます。また、ビデオテープやテレビ放送の画像を見るときは本機のパワースイッチを切り、デッキ切換えスイッチを使用するVTRに合わせて押してください。
- 画質調整つまみ付きのVTRをご使用の場合、つまみの調整位置によっては、再生時に雑音が発生したり、音が途切れることがあります。この場合は、つまみをまわして良好な再生が得られるように調整してください。

# デジタルコピー

## ■ VTRのトラッキング調整について

映像の再生を行う場合と同様に、VTRのトラッキングがずれていると良好なPCM再生を行うことができません。

録音と再生に使用するVTRが同じ場合は特に問題はありませんが、異なる場合はドロップアウトなどが多くなることがあります。最適な状態でPCM再生を行うため、次の手順でVTRのトラッキングを調整してください。

- ① 再生を行います。
- ② メーターモード切換えスイッチを“TRACKING”にセットします。ピークレベルメーターの“L”チャンネル側がトラッキング表示になります。
- ③ VTRのトラッキング調整ツマミを左右にゆっくりとまわし、トラッキング表示の点灯が“-3dB”の位置に近づくように調整します。  
※“-3dB”まで点灯するのが理想的ですが、点灯が“-15dB”を越えていれば実用上問題はありません。
- ④ VTRのトラッキング調整ツマミをまわしても点灯が“-15dB”まで達しない場合は、さらに本機背面のリードレベルコントロールをまわしてみます。VTRからの信号が極端に非対称な状態でも改善される場合があります。



- VTRのトラッキング調整ツマミや本機のリードレベルコントロールを調整しても良好な再生が得られない場合は、VTRのヘッド部の汚れやビデオカセットの不良が考えられます。ヘッドのクリーニングやビデオカセットの交換を行ってください。

## ■ ミューティングスイッチについて

ミュートスイッチは通常、“AUTO”にセットしておきます。再生時、VTRの立ち上がり時のトラッキングずれや、テープの汚れや傷のためドロップアウトが生じた場合などに内蔵のミュート回路が働いて出力をカットし、不快な雑音の発生を防ぎます。

テープの状態が悪く、たびたびミュート回路が働いて出力が途切れる場合は、このスイッチを押してインジケータが消灯した状態にセットすると、多少の雑音は出ますが連続して再生することができます。

また、VTRの早送りサーチ機能を利用して、曲の頭出しなどを行うこともできますが、この場合はアンプのボリュームを十分下げてください。

- VTRの早送りサーチ機能を利用して曲の頭出しを行う場合、VTRによっては音が出ないことがあります。この場合は、曲の頭出しはできません。

VTRを2台使用して、テープからテープへのデジタルコピーを行うことができます。デジタル信号状態でコピーされるため、音質劣化がなく、オリジナルと同じテープを複製することができます。

- テープコピー禁止符号が記録されているテープは、デジタルコピーすることができません。このようなテープを再生すると、本機の“NO COPY”インジケータが点灯します。

## ■ デジタルコピーのしかた

- ① 各装置の電源を入れます。
  - ② デッキ-1(再生)→デッキ-2(録音)へのコピー：  
デッキ-1 スイッチを押す。  
デッキ-2(再生)→デッキ-1(録音)へのコピー：  
デッキ-2 スイッチを押す。
  - ③ 再生用のVTRに録音済みのビデオカセットを、録音用のVTRに新しいビデオカセットを装着します。
  - ④ 録音用VTRの録画時間切換えスイッチをセットします。
  - ⑤ 本機のコピースイッチを押します。(インジケータ点灯)
  - ⑥ 再生用のVTRを再生状態にし、録音用VTRを録画状態にするとデジタルコピーが始まります。
  - ⑦ デジタルコピーが終わったら、録音用VTRを停止状態にし、次に再生用VTRを停止状態にします。
- デジタルコピーを行う場合、録音レベルの調整は必要ありません。
  - デジタルコピーが終わったら、コピースイッチを必ず“OFF”に戻しておいてください。
  - 2台のVTRを本機に接続した状態で、映像のコピーを行うことはできません。

